

報告事項シ

国史跡妻木晩田遺跡の発掘調査について

国史跡妻木晩田遺跡の発掘調査について、別紙のとおり報告します。

平成30年12月20日

鳥取県教育委員会教育長 山本仁志

# 国史跡妻木晩田遺跡の発掘調査について

平成30年12月20日  
文化財課

## 1 発掘調査概要

- (1) 調査地 まつおがしら 松尾頭10区(次ページ図) ※松尾頭地区は有力者の居住域と想定される地区
- (2) 調査面積 638㎡
- (3) 調査期間 平成30年6月18日～11月13日
- (4) 調査目的 ①集落衰退期である弥生時代終末期(3世紀前半)の首長墓の実態解明  
②集落における居住域から墓域への変遷過程の解明  
→上記①②の目的を達成するため、同地区を平成29～30年度の2カ年で調査

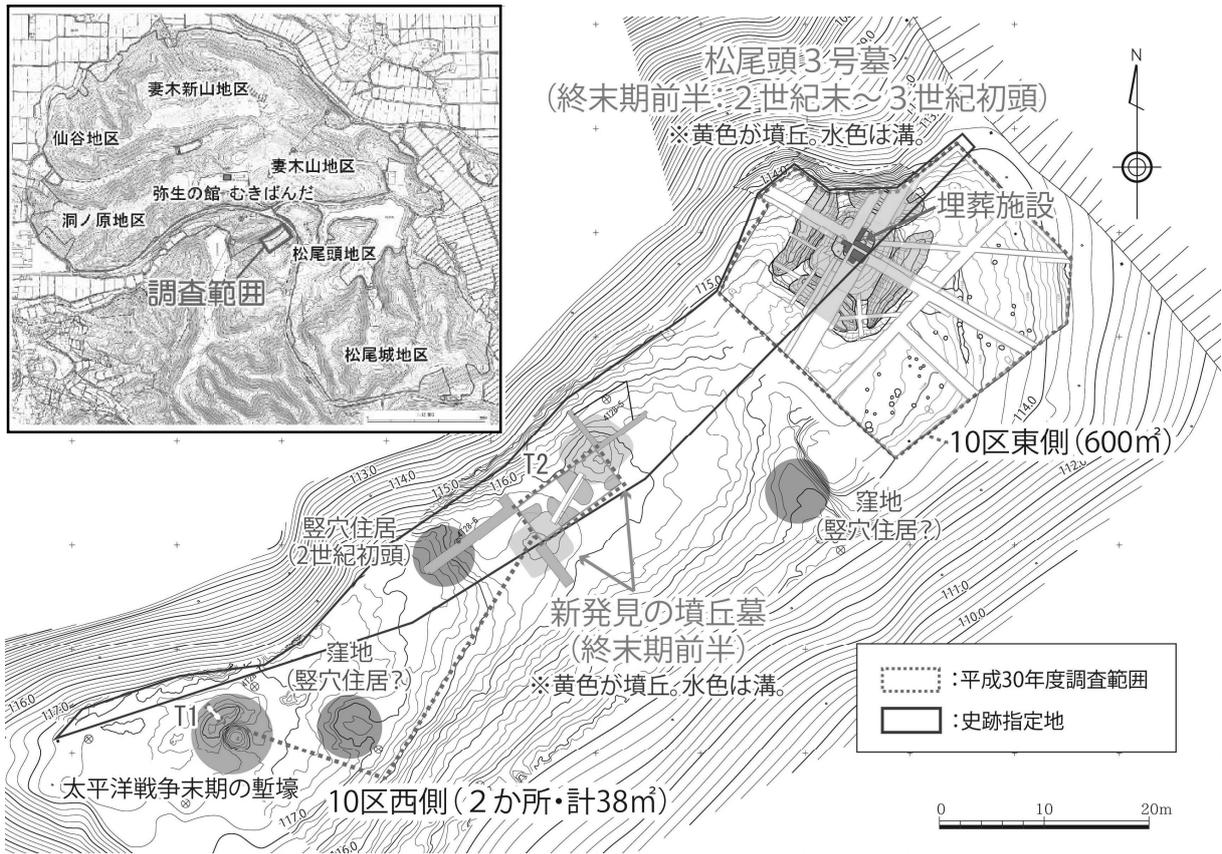
## 2 発掘調査成果

松尾頭3号墓の埋葬施設を検出するとともに、新たに2基の墳丘墓を確認。

- (1) 墳丘墓とは墳丘(盛り土などによって築造された小高い丘)をもつ墓。弥生時代には限られた有力者層が埋葬された。
- (2) 平成29年度に新発見した墳丘墓である松尾頭3号墓(築造時期は弥生時代終末期前半:2世紀末から3世紀初頭)について、有力者が葬られた棺の痕跡など埋葬施設を調査した結果、少なくとも3人埋葬されていたことが判明した。これまで情報がなかった弥生時代終末期前半の墳丘墓の実態について明らかにすることができた。
- (3) 新たに確認した2基の墳丘墓の形は方形であった。松尾頭3号墓同様、墳丘の外周に溝が掘られる形態で、松尾頭3号墓と同時期の弥生時代終末期前半(2世紀末から3世紀初頭)と判明した。  
※今回の発見で、妻木晩田遺跡の墳丘墓は39基となった。  
よすみとつしゆつがた  
(四隅突出型:13基、方形:25基、円形:1基)
- (4) 墳丘墓群が造られる以前の土地の利用についても調査した結果、墳丘墓群が造られるよりも古い、弥生時代後期前葉(1世紀後半)から弥生時代後期中葉(2世紀初頭)には居住域として利用されており、終末期の段階で有力者の墓地に変わったことが分かった。

## 3 一般公開等

- (1) 現地説明会 平成30年10月21日(日) 参加者62名
- (2) その他 発掘調査成果の写真パネル等を企画展示室で展示するとともに、ショッピングセンター等でも巡回展示を行う。(2月上旬～4月初旬)。  
史跡公園にて隔月で開催している「土曜講座」において発掘調査成果を報告する(平成31年2月9日)。

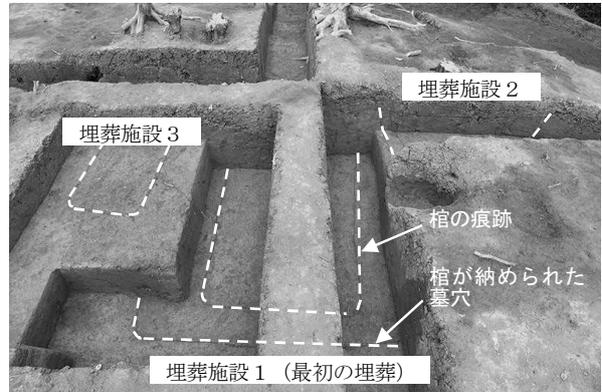


▲ 図 発掘調査位置及び調査成果概要図

▼ 写真 松尾頭3号墓墳丘墓全景 (南から撮影)



▼ 写真 松尾頭3号墓埋葬施設 (東から撮影)



▼ 写真 新発見の墳丘墓 (南から撮影)

